



文献を入手する

「文献調査」資料その3

豊橋技術科学大学附属図書館
2025

この資料では、文献検索データベースで検索した結果、表示された文献を入手する方法、あるいは参考文献リストに掲載されていた文献を入手する方法について説明をします。

文献を入手する

「文献調査」
資料その1より

文献データベースで検索した結果や
文献リストなどの情報を元に入手方法を選択

Scopusデータベースの検索結果例

文献タイトル	著者名	出版年	出版物名	被引用数
<input type="checkbox"/> 1 Robust liquid container transfer control for complete sloshing suppression	Yano, K., Terashima, K.	2001	IEEE Transactions on Control Systems Technology 9(3), pp. 483-493	107

抄録を表示 T.U.T. Link [フルテキスト](#) 関連文献

- ・大学で契約している電子ジャーナルの論文
- ・無料で本文公開されている論文
(オープンアクセス論文)

「フルテキスト」をクリックすると
全文が表示される

文献を入手するのに必要な情報

雑誌名：IEEE Transactions on Control System Technology
巻 (Volume):9
号 (Number):3
掲載ページ数：483-493

文献検索データベースを検索すると、あるテーマや著者などに関する文献を探することができます。

そして、検索結果画面を見ると、論文タイトルや著者名とともに、その文献が掲載されている雑誌名や巻号・ページ・出版年などがわかります。

また、参考文献リストにも、雑誌名や巻号・ページ数・出版年などの情報が記載されています。

それらの情報を元に、入手方法を探します。

例えば、Scopusという文献検索データベースの検索結果例がこちらです。

まず、この論文の本文を見たい場合には「フルテキスト」をクリックしてみます。契約している電子資料（電子ジャーナルなど）や、無料で公開されている文献であれば、そのまま全文が画面表示されて読むことができます。

しかし、全文が表示されなかった場合は、契約していない電子資料に掲載されている文献になりますので、別の入手方法を探さないといけません。

そのとき、出版物名・巻号・ページ数・出版年 こちらが重要な情報になります。

文献を入手する

参考文献リストから情報を入手する

<雑誌論文>

Antoni, J., 2007, Cyclic special analysis of rolling-element bearing signals:

論文著者名 出版年 論文タイトル

Facts and fictions, *Journal of Sound and Vibration*, 304, pp.497-529

掲載雑誌名 巻 掲載ページ数

<図書>

S.P.Timoshenko and H.N. Goodier: "Theory of Elasticity", 3rd ed., McGraw-Hill,

著者名 書名 版次 出版社

New York (1970)

出版地 (出版年)

参考文献リストの情報も同じです。そこに記載されている雑誌名や巻号・ページ数・出版年から資料を探します。

たとえば、上の雑誌論文は、斜体になっている *Journal of Sound and Vibration* が掲載されている雑誌名になります。その304巻 497ページから529ページにこの Cyclic… という論文が掲載されています。 Antoni J は論文の著者名です。

次の図書は、*Theory of Elasticity* というのが本の書名で、S.P. Timoshenko and H.N. Goodier というのがこの本の著者です。こちらは、本1冊そのものが参考文献として掲載されていました。

文献を入手する方法

1. **電子版が利用できた場合**
…Webから入手
2. **本学図書館で所蔵している場合**
…冊子版をコピーして入手
3. **電子版も冊子版もない場合**
…文献取寄依頼【ILLサービス】を利用
他機関から送付してもらい入手

それでは本題に入ります。文献の検索結果や参考文献リストに載っている情報から文献を探すのですが、入手方法は3つあります。

1つめは、電子版（電子ジャーナルや電子ブック）でWebで閲覧したりダウンロードして入手する方法です。

2つめは、掲載されている冊子（雑誌や図書）が本学にあるか探し、所蔵されていれば、冊子をコピーして入手ができます。

3つめは、冊子が本学になく、電子版でも入手できない場合ですが、他大学の図書館などに所蔵していれば、その論文のコピー（複写物）の取り寄せや、図書であればその図書を郵送で借りることができます。この他機関からの取り寄せサービスを、ILL（アイ エル エル）サービスと呼んでいます。

1.電子版をWebで入手

本文ダウンロードは本学で契約している範囲が可能

【契約中の主な電子ジャーナル】

- ・ Nature(1997-)
- ・ Science(1997-)
- ・ Elsevier(1998-)
- ・ Wiley(1996-)
- ・ Springer(創刊-)



・ オープンアクセス論文とは…

誰でもWebを通じて無料で自由に論文へアクセスできる

では、1つめ、電子版（電子ジャーナルや電子ブック）でWebで閲覧したりダウンロードして入手する方法について説明します。

本学では、文献検索データベースの他に、雑誌の電子版となる電子ジャーナルや電子ブックなども契約しています。

世の中にあるすべての電子ジャーナルを契約しているわけではないので、すべてを見ることはできませんが、

Elsevier社・Wiley社・SpringerNature社などの電子ジャーナルを契約し本文を見ることができるようになっています。

また、最近では、オープンアクセス論文と言って、無料で本文を公開している論文も増えてきています。

1.電子版をWebで入手

Scopus で検索してみる

The image shows a Scopus search interface. The search results table is as follows:

文献タイトル	著者名	出版年	出版物名	被引用数
<input type="checkbox"/> 1 Cyclic spectral analysis of rolling-element bearing signals: Facts and fictions	Antoni, J.	2007	Journal of Sound and Vibration 304(3-5), pp. 497-529	259

Below the table, there are links for '抄録を表示', 'TUT Link', 'フルテキスト', and '関連文献'. An arrow points from the 'フルテキスト' link to the full-text view on the right.

The full-text view shows the title 'Cyclic spectral analysis of rolling-element bearing signals: Facts and fictions' by J. Antoni, published in the Journal of Sound and Vibration, Volume 304, Issues 3-5, 24 July 2007, Page 497-529. The abstract text is: 'Rolling element bearing vibrations are random cyclostationary. This property is so symptomatic when an incipient fault develops that it can be exploited for diagnostics. This paper discusses which cyclic spectral tools should be considered for that purpose. Specifically, it demonstrates the optimality of the cyclic coherence, which can not only evidence the presence of a fault in high levels of background noise, but can also return a relative measure of its severity. The estimation issue of the cyclic coherence is addressed in detail, as well as its use in a statistical test, and sub-optimal simplifications. Eventually, it is shown that the familiar squared-envelope spectrum happens to be a special case of the cyclic coherence with very similar diagnostic capabilities.'

参考文献リストに掲載されていた文献が電子ジャーナルで利用できるかを探す場合、文献検索データベースなどで検索してみます。

そのときには、全分野、過去まで遡って検索できるScopusを利用したり、Google Scholar (グーグル スカラー) を利用すると便利です。

Scopusでは 検索語に、論文タイトルや著者名を入れて検索したり、出版年で絞り込むことができます。

検索結果画面には、「フルテキスト」というリンクボタンが、各文献に表示されています。

その文献が掲載されている電子ジャーナルを大学で契約していたり、無料公開論文である場合は、「フルテキスト」リンクをクリックすると、すぐに画面上に本文が表示されて、全文（フルテキスト）を読むことができます。

この文献の場合は、本学が契約している電子ジャーナルのため、該当する論文の検索結果「フルテキスト」をクリックすると全文が表示されます。

1.電子版をWebで入手

本文ダウンロードは本学で契約している範囲が可能

文献タイトル	著者名	出版年	出版物名	被引用数
<input type="checkbox"/> 1 Robust liquid container transfer control for complete sloshing suppression	Yano, K., Terashima, K.	2001	IEEE Transactions on Control Systems Technology 9(3), pp. 483-493	107

抄録を表示 ▾ [TUT Link](#) [フルテキスト](#) [関連文献](#)

契約している場合は
本文が表示される

本文が見られない場合
Log inの画面や
Purchase (購入) の画面が
表示される

The screenshot shows the 'Access Options' section of a journal website. It includes three main columns: 'My Account' with fields for email and password, a 'Remember me' checkbox, and a 'Sign in' button; 'Institutional Login' with a note about university/library access and a red 'Access through your institution' button; and 'Purchase Content' with a note about 24-hour online access, an 'Article \$35.00' price, an 'Add to Cart' button, and a 'Rent with DeepDyve' option with a 'Rent Article' button. There are also links for 'Forgot your password?' and 'Need Help?' under each section.

もし「フルテキスト」リンクをクリックしたときに、価格が表示されたり、ID・パスワードなどの入力を要求される画面になる場合は、残念ながら、その雑誌自体、またはその年を契約していない場合で、本文を読むことができません。

例えばAPSなどの電子ジャーナルは本学では契約していません。ElsevierやWiley、Natureでも古い年代のものは契約していないのでそのような画面になります。

1.電子版をWebで入手

Google Scholarで検索してみる

< Google Scholar >
URL
<https://scholar.google.co.jp/>



設定をしておく
便利
設定はここから

Google Scholar

記事

新着論文なし
2029年以降
2019年以降
2016年以降
期間を指定...

[HTML] Cyclic spectral analysis of rolling-element bearing signals: Facts and fictions
J. Antoni - Journal of Sound and vibration, 2007 - Elsevier
Rolling-element bearing vibrations are random cyclostationary. This property is so symptomatic when an incipient fault develops that it can be exploited for diagnostics. This paper discusses which cyclic spectral tools should be considered for that purpose. Specifically, it demonstrates the optimality of the cyclic coherence, which can not only evidence the presence of a fault in high levels of background noise, but can also return a relative measure of its severity. The estimation issue of the cyclic coherence is addressed in ...
☆ 引用元 312 関連記事 全7バージョン Web of Science 199

この検索の最上位の結果を表示しています。 検索結果をすべて見る

Google Scholar

プロフィール
★ マイライブラリ
アラート
統計情報
検索オプション
設定

設定

検索結果

図書館アクセスリンクを指定 (最大5つ):

豊橋技術科学大学

別 東京大学

豊橋技術科学大学 - TUTLink

Weibcat Plus図書館情報ナビゲータ - Weibcat Plus一致検索

導線: 図書館へのオンラインアクセスは会員のみで制限されています。 図書館のIPアドレスを使用してログインする。大学のコンピュータを使用する。図書館のプロキシを使用するようブラウザを設定するなどが必要になる場合があります。 図書館のウェブサイトにアクセスするが、該当者にお問い合わせください。

保存 キャンセル

Google Scholar 画面

[HTML] sciencedirect.com

全文表示

Download PDF Share Export

Journal of Sound and Vibration
Volume 294, Issues 3-4, 24 July 2007, Pages 497-529

Cyclic spectral analysis of rolling-element bearing signals: Facts and fictions

J. Antoni

Show more

<https://doi.org/10.1016/j.jsv.2007.03.029> Get rights and content

Abstract

Rolling-element bearing vibrations are random cyclostationary. This property is so asymptomatic when an incipient fault develops that it can be exploited for diagnostics. This paper discusses which cyclic spectral tools should be considered for that purpose. Specifically, it demonstrates the optimality of the cyclic coherence, which can not only evidence the presence of a fault in high levels of background noise, but can also return a relative measure of its severity. The estimation issue of the cyclic coherence is addressed in detail, as well as its use in a statistical test, and sub-optimal simplifications. Eventually, it is shown that the familiar squared-envelope spectrum happens to be a special case of the cyclic coherence with very similar diagnostic capabilities.

同じ文献ですが、Google Scholar というサイトで検索してみた場合です。

論文名を入れて検索すると、該当する文献が表示されました。
右側にある [HTML] というところをクリックすると、全文が表示されました。

Google Scholar の場合は、[HTML] [PDF] と表示されているものがあれば、全文を見ることが多い場合が多いです。
ただし、出版（雑誌に掲載、あるいはWEBサイトに公開）された形式のほかに、著者原稿の形式の場合もあります。

Google Scholar は学外でも無料で利用できるサイトですが、「設定」で図書館リンク「豊橋技術科学大学 TUT LINK」をチェックしておく、学外でも大学内で利用しているときと同様な情報を得ることができます。

電子版で入手できなかったときは、次の入手方法を探します。

2.冊子版をコピーして入手

-本学冊子所蔵ありの場合

まずOPAC（資料の検索）で本学に所蔵があるか確認

OPAC <https://opac.lib.tut.ac.jp/drupal/>

資料の検索
OPAC CiNi 国会図書館



雑誌名で検索すること！
論文名×

所蔵巻号の範囲内を所蔵しているので所蔵巻号の情報を確認



No.	所蔵巻号	請求記号	所蔵	購入経緯
1	1-6	図書誌・雑誌	1993-2000	

<例>

- ・ 1-6 Volume1～6まですべて所蔵
- ・ 1-4,6 Volume1～4と6を所蔵 Volume5は所蔵していない
- ・ 1-3,4(1-5,7-12) ... Volume 1～3はすべて所蔵しているが、Volume 4はNumber 1～5と7～12を所蔵、Number 6を所蔵していない

それでは、電子版が入手できなかったとき、2つめの入手方法です。

電子ジャーナルでは見られない場合でも、雑誌の冊子版を本学で所蔵している場合があります。

冊子版を探して、冊子版を所蔵していればそのものを見る、あるいはコピーして入手するということができます。

所蔵情報はOPAC（オーパック）という蔵書検索システムで検索します。

<OPAC URL <https://opac.lib.tut.ac.jp/drupal/>>

図書館のホームページの資料・所蔵の検索の囲みのところで検索できます。「資料の検索」という黄色のバナーからもOPAC画面にリンクしています。学外からでも検索可能です。

所蔵を探すとき、OPACでは雑誌名や本の書名で検索してください。論文名では検索できません。

所蔵していれば、検索結果に雑誌名や図書の書名が表示されます。

雑誌の場合は「所蔵巻号」の情報を参照してください。そこに記載されている巻号を本学で所蔵しています。論文の掲載巻号と照らしあわせてください。

2.冊子版をコピーして入手

-本学冊子所蔵ありの場合

所在：「図書館・雑誌」の場合

- ・今年発行1年分 …………… 2階新着雑誌コーナーに配架
 - ・バックナンバー …………… 3F書庫と別棟書庫に年代で分けて保存
- 3階書庫 1986年以降の国内雑誌と1988年以降の外国雑誌（3階書庫は出入り自由）
別棟書庫 上記以前のバックナンバー
- 別棟書庫にある雑誌はOPACのマイライブラリにある [新規申し込み] -
[別棟書庫内資料の申込・文献複写依頼（他大学等）] から申込可
一部、保存年限付きの国内雑誌のバックナンバーは2階に配架



別棟書庫
バックナンバー
外国雑誌 1987以前
国内雑誌 1985以前

配架場所ですが

雑誌については、図書館内、今年発行分は2階新着雑誌コーナーに
バックナンバーは、所在：図書館雑誌であれば
外国雑誌は1988年～最近1年前まで
国内雑誌は1986年～最近1年前までは3階書庫に
それより前は、別棟の書庫に配架しています。

国内雑誌の一部、保存年限付きの雑誌のバックナンバーは2階に配架しています。

所在：2階紀要は 2階の紀要コーナーにあります。OPACの所在をクリックすると地図が表示されます。

配架場所がわからない場合は図書館カウンターへお尋ねください。

3階書庫は自由に入れますが、別棟書庫は利用者の方は入れません。

別棟書庫にあるものは、図書館職員が取りに行きますのでOPACのマイライブラリにある「新規申し込み」の「別棟書庫内資料の申込・文献複写依頼（他大学等）」からお申込みください。

書庫から取り寄せてお渡しの準備ができましたら、メールでお知らせいたします。

2.冊子版をコピーして入手 -本学冊子所蔵ありの場合

図書館内の文献を複写するときは、著作権法が適用されます。

また、複写機横に備え付けの用紙「**文献複写申込書**」に記入の上、複写をしてください。

- ・ 図書は全部ではなく一部であること。（全体の半分以下）
- ・ 定期刊行物に掲載された各論文その他の記事はその全部であるが、刊行後相当の期間を経たもの（次号が既刊となったもの、または刊行後3ヶ月を経たもの・・・等）に限ること。
- ・ コピー部数は一人について一部のみであること。
- ・ 調査・研究用に限ること。
- ・ 再複写は許されない。
- ・ 再配布をしないこと。

許容範囲を厳守してください！

館内資料のコピーは、複写機の横に置いてある「**文献複写申込書**」に必ず記入の上、利用者ご自身で複写をしてください。

複写をする場合は、著作権の範囲内をお願いします。

雑誌論文は、最新号でない限り複写できますが、
一人一部・調査や研究のため、再複写や再配布は禁止。

図書は全部ではなく一部の複写に限る。

などの決まりがあります。

館内複写機のところや複写の際に必ず記入していただく「**文献複写申込書**」にも、この遵守事項が書いてありますので、遵守して複写をしてくださるようお願いいたします。

複写機は2階に校費コピー用を設置しています。

教職員の方はご自身の教職員証で複写できます。

学生の方は、指導教員から校費用のコピーカードを借りて複写してください。

（校費用のコピーカードは必要な教員の方に配布しています。情報図書係までお問い合わせください。）

私費で複写したい場合は、図書館カウンターへお申し出下さい。

3.文献取寄依頼で他機関から入手 -ILLサービス

【申込方法】

・Webから依頼

【事前提出】 学生校費払いの場合
「Webからの文献複写・現物貸借依頼
システム利用申請書」を
図書館カウンター あるいは
情報図書係サービス担当へ提出
service@office.tut.ac.jp

設定完了メール到着後、
利用可能

「Webからの文献複写・現物貸借依頼システム利用申請書」
https://lib.tut.ac.jp/guidance/web_ill_form.pdf

◎依頼ページは図書館HP [マイライブラリ] から
[新規申し込み] -
[別棟書庫内資料の申込・文献複写依頼 (他大学等)]
より申込可能



取寄依頼の申込方法はWebからになります。

Webから文献複写依頼の申込みをする場合、学生の方が校費で申し込みする場合、個人ごとに図書館で設定が必要ですので、

支払い責任者の教員の確認をとり、あらかじめ「Webからの文献複写・現物貸借依頼システム利用申請書」を図書館カウンターあるいは情報図書係サービス担当へ提出してください。

<Webからの文献複写・現物貸借依頼システム利用申請書
https://lib.tut.ac.jp/guidance/web_ill_form.pdf>

この「利用申請書」も図書館ホームページからダウンロードできます。設定完了後、申し込みができるようになります。

Webから文献複写依頼をする画面は、マイライブラリから入ることができます。情報メディア基盤センターのアカウントでログインするとマイライブラリの画面になります。

マイライブラリの「新規申し込み」の項目に「別棟書庫内資料の申込・文献複写依頼 (他大学等)」と表示されています。

クリックすると、依頼入力画面が表示されますので、必要事項 (論文名・著者名・資料名・巻号・ページ数・出版年) を詳細に記入してお申し込みください。

ガイドシートNo.7に入力方法を記載していますので、参照してください。

<ガイドシート No.7 <https://lib.tut.ac.jp/literature/gsheet7.pdf> >

文献が到着するとメールでお知らせします。校費の場合、教員の方は学内便でお送りします。学生は担当教員に学内便でお送りしますので、そちらで受け取ってください。私費の場合は支払い手続き後にお渡ししますので、まずは図書館カウンターまでお越しください。

3.文献取寄依頼で他機関から入手 -ILLサービス

◎データベースのTUT Linkからも依頼可能 -Scopusの場合

Scopus 検索結果画面

TUT Link

TUT Link画面

マイブラリ画面

雑誌名や論文名・巻号
ページ数などが
自動でセットされる！
TUT Linkを経由すると
便利

Webで申込入力する方法ですが、マイブラリから入って、依頼入力画面（白紙状態）で入力する方法の他に各データベースの検索画面の「TUT Link」ボタンから「TUT Link」画面にリンクし、そこからマイブラリ画面へ遷移、依頼入力することもできます。

「TUT Link」画面から遷移すると、検索結果の論文名や著者名・雑誌名・ページ数などの情報が、そのままマイブラリ画面に自動でセットされますので大変便利です。

こちらは、Scopusの検索結果画面から、「TUT Link」ボタンをクリックし、マイブラリの文献の複写依頼入力画面へ遷移した例です。

「TUT Link」画面をご覧になってお気づきでしょうか。実はこれまで説明してきた3つの入手方法の情報が一度にわかる画面になっています。

「フルテキスト」が、電子ジャーナルが利用可能かどうか

「学内所蔵情報」が、OPACの情報

「外部文献利用申請」が、ILLサービスの申し込みになっています。

文献検索データベースを検索して、文献を入手したい場合は、ぜひ「TUT Link」をクリックして利用してください。

3.文献取寄依頼で他機関から入手 -ILLサービス

◎データベースのTUT Linkからも依頼可能 – CAS SciFinder®の場合

Reference Detail (1 of 1,393,827) CAS SciFinder® 検索結果 詳細画面

Substances (0) Reactions (0) Cited By (1,417) Citation Map

Journal: Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America
Volume: 99
Issue: 19
Pages: 12293-12297
Journal Article, Research Support, Non-U.S. Govt
2002
DOI: 10.1073/pnas.192461099

Database Information
AN: 2002:734721
CAN: 137:231214
PubMed ID: 12218188
C.A.B. International and MEDLINE

Company/Organization
Department of Medical Chemistry,
Graduate School of Medicine
Kyoto University
Kyoto 606-8501
Japan

Involvement of PD-L1 on tumor cells in the escape from host immune system and tumor immunotherapy by PD-L1 blockade

By: Iwai, Yoshiko; Ishida, Masayoshi; Tanaka, Yoshimasa; Okazaki, Taku; Honjo, Tasuku; Minato, Nagaharu

PD-1 is a receptor of the Ig superfamily that neg. regulates T cell antigen receptor signaling by interacting with specific ligands (PD-L) and is suggested to play a role in the maintenance of self-tolerance. In the present study, we examined possible roles of the PD-1/PD-L system in tumor immunity. Transgenic expression of PD-L1 on P815 tumor cells rendered them less susceptible to the specific T cell antigen receptor-mediated killing in vitro, and markedly enhanced their tumorigenesis and invasiveness in vivo in the syngeneic mice with the parental tumor cells that lacked endogenous PD-L. Both effects could be reversed by anti-PD-1 antibody. Murine tumor lines revealed that all of the myeloma cell lines examined naturally expressed PD-L1. Myeloma cells in normal syngeneic mice was inhibited significantly albeit transiently by the administration of Ab in vivo and was suppressed completely in the syngeneic PD-1-deficient mice. These results suggest that expression of PD-L1 can serve as a potent mechanism for potentially immunogenic tumors to escape host immune responses and that blockade of interaction between PD-1 and PD-L may provide a promising strategy for tumor immunotherapy.

Keywords: PD L1 tumor cell immune escape

Full Text ▼
TUT Link
DOI
View all sources

Journal Subject Headings

基本情報 関連情報 TUT Link画面

▼フルテキスト

Free
HighWire Press, Free でフルテキストを見る
年: 2002 巻: 99 号: 19 開始ページ: 12293

Free
PubMed Central でフルテキストを見る
年: 2002 巻: 99 号: 19 開始ページ: 12293

▼学内所属情報

大学図書館(CAL)で所蔵を確認

[1] Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America
82-90,91(1-7,15,18,22,25-26),92-97 図書館・雑誌 1985-2000

[2] Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America
48-76 図書館・雑誌 1962-1979

DBLP Books で所蔵を確認

Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America (462館で所蔵)
Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America (345館で所蔵)

▼外部文献利用申請
文献照会 を申し込む

CAS SciFinder®の場合は
詳細画面の Full Text というところの▼をクリックするとTUT Link画面へのリンクがあります。

また、DOIをクリックすると、文献の電子ジャーナルサイトに直接リンクします。

そのほか

【参考資料】

- Library Guide Sheet No.2 <https://lib.tut.ac.jp/literature/gsheet2.pdf>
学内で所蔵している図書を探す・予約する・蔵書検索（OPAC）を使う
- Library Guide Sheet No.3 <https://lib.tut.ac.jp/literature/gsheet3.pdf>
学内で所蔵している雑誌や電子ジャーナルを探す・蔵書検索（OPAC）を使う
- Library Guide Sheet No.5 <https://lib.tut.ac.jp/literature/gsheet5.pdf>
電子ジャーナルを使ってみよう その2 TUT LINK (SFX) のナビゲート機能を使う

【お問い合わせ】

豊橋技術科学大学附属図書館 情報図書係サービス担当 service@office.tut.ac.jp

問い合わせについて OPAC > マイライブラリ > お問い合わせフォーム

OPAC URL <https://opac.lib.tut.ac.jp/drupal/>



そのほか、図書館では

Library Guide Sheet（利用ガイド）を何種類か作成しています。

OPACやTUT Linkを利用する際に、参考にしてください。

資料の入手方法について、ご不明な点があれば、図書館カウンターあるいは情報図書係サービス担当までお尋ねください。

メールやWebからもお問い合わせを受け付けています。